4/15 全国少年柔道大会出場選手表敬訪問

川之江柔道会の芝山哲平さん（三島小６年）、尾崎颯羽（そう）さん（妻鳥小６年）、守谷魁盛（かいせい）さん（川之江小６年）、吉岡駿さん（金生第一小５年）、高津拓実さん（川之江小５年）、土肥愛海（あいみ）さん（川之江小６年）が、東京都で行われる全国少年柔道大会へ出場することを市長に報告しました。

4/27 みしま子どもの祭典

みしま児童センターで行われ、訪れた約 300 人の家族連れは、剣玉や輪投げ、スーパーボールすくいなどをしたり、そうめん流しやフランクフルトを食べたりして、楽しい時間を過ごしていました。

5/9 幼稚園児らが金生川で稚鮎を放流

銅山川鮎釣りクラブ（矢野和志会長）と国際ソロプチミストイースト愛媛（飛鷹洋子会長）主催による稚鮎の放流が行われ、市内の園児約 250 人が「大きく育ってね」などと声をかけながら、およそ 7,000 匹を放流しました。

4/27 学校給食米田植え体験会

土居町蕪崎の田んぼで行われ、約 100 人の小学生と幼児、JA 職員と市職員による早乙女や関係者も含め、270 人以上が参加し、手や足を泥だらけにして１本１本丁寧に苗を植えていきました。

4/28 こどもフェスティバル

川之江ふれあい交流センターで行われ、人形劇の楽しいステージのほか、館内にはナイロンこいのぼりの工作コーナーや、くじびきコーナーなどが設けられ、会場は子どもたちの笑顔と歓声に包まれていました。

5/11 えひめさんさん物語チャレンジプログラム 紙バンドで遊ぼう

三島図書館でちょきちょき隊（西川康子代表）により行われ、約 40 人が参加して、鈴を入れたボールを紙バンドで作りました。参加した小学生は「難しかったけど楽しかった。また参加したい」と話していました。

たがみ鍼灸マッサージ院
出張できます（川之江・伊予三島地区）
営業時間：9:00 ～ 12:00　13：30 ～ 18：30
定休：木・土午後＆日・祝
TEL ７７－５１１１　予約優先
妻鳥町２８７０－１

新鮮！元気！
JAうま農産物直販所
ジャジャうま市
9 時～ 16 時
（年中無休）
中之庄町 1684-4
Tel:23-3377
おいでや市
9 時～ 16 時
（火曜定休）
妻鳥町 1121 Tel:59-6001
ふれあい市
9 時～ 13 時
（火曜・年末年始定休）
金生町下分 2550-2
Tel:58-3953

ドア・窓リフォーム
サトートーヨー住器(株)
0120-62-1128

東予東部圏域振興イベント 四国中央市・新居浜市・西条市
えひめさんさん物語

4/20（土）新居浜市で行われた開幕祭を皮切りに、市内でもさまざまなイベントが始まりました。各会場では大型連休中ということもあり、多くの親子連れでにぎわいました。

第1話　ものづくり物語
5/5（日・祝）工場のおしばい

二つの煙突に人の顔が映し出され兄弟煙突のおしばいが繰り広げられました。

5/5（日・祝）アーティスト in ファクトリー

アーティストと企業が協働で制作した作品と、ものづくりの現場を楽しみました。

株式会社一柳（一柳こんにゃく店）

伊予水引金封協同組合

カクケイ株式会社

協和紙工株式会社

市長のひとりごと

四国中央市長
篠原 実

「持続可能な地域の未来」のために

ある総合病院の病院長さんが交代して、医療グループ全体を統括する総院長になった。私は彼女が一人の人間として、ドクターとして、また福祉関係も入れた後継者として苦労と努力をされてきたのをよく知っている。医療の世界も患者サイドから見れば、すべて満足なんてことは難しい。グループの総帥として、病院の広報誌でのあいさつの中で述べられている文章を紹介して、市民のみなさんも一緒に考えていただければありがたいと思います。

…これからの社会は、老年人口・生産年齢人口が共に減少する2040年に向かって、いかに自分らしさを維持しながら長生きするかが重要になってきます。これを実現するためには、私達医療・介護従事者が、病気の治癒だけにフォーカスし入院期間中の支援のみを行う「治す治療」から、入院前や退院後の生活まで目を向け、元の生活に早期に戻れるための「治し支える医療」へと転換することが必須となります。また、85歳以上の高齢者の多くは認知症を発症しており、このような病気を「抱えて生きること」への支援も必要です。これらの課題は、決して一つの医療機関だけで解決出来るものではありません。地域の医療機関・福祉施設・行政・患者・家族が垣根なく情報共有を行い、生活の視点を持った医療、あるいは医療・介護の視点を持った生活支援を行うことが非常に重要です。こうした地域内多職種連携によって、健康寿命の伸長や、シニア世代の活躍による生きがい創出、地域の生産性の向上といった「持続可能な地域の未来」へと道が開けるものと考えます。…

これは学者や評論家ではなく、第一線で医療、福祉、介護を実践されている人間の言葉です。

なお、新しい病院長さんには、地元大学の医学部を退職された土居町出身のドクターが就任されています。公立学校共済組合四国中央病院の移転問題も、三島医療センターを中心に具体的な構想ができつつあります。